

授乳指導に関する学習指導案の有用性

伊藤利明
加仲真理子
石村由利子

抄録

本論文では、4年制大学、看護大学3年生に対する母性看護学演習において学習指導案を作成することが有用であることを指摘した。母性看護学演習の学習指導案は、実際に母性看護学実習で遭遇する授乳の場面を取り上げ、導入10分、展開75分、まとめ5分とし、母親役の学生と看護師役の学生の基本2人組で内容を構成した。学習指導案を作成することによって、3点の有用性を見出した。第1に、学習指導案を作成する段階でその内容や構成を吟味し、修正することで円滑な演習が可能となる。第2に、演習での学習課題や学習内容が明確となり、一貫性を持たせることができる。第3に、母性看護学演習の内容や構成の評価が可能となる。以上のことから、母性看護学演習における学習指導案の作成は有用であると結論付けられることを確認した。

キーワード：授乳指導、母性看護学演習、学習指導案

1. 緒言

1990年以降、人口減少の抑制が重要な政策課題として取り上げられ、少子化対策が論じられるようになったが、その後も出生数は漸減し、現在まで回復の兆しは見えていない。少子化による人口構成のゆがみは社会経済的問題を招くことが懸念されるが、同時に、子育て環境にも影響を及ぼしている。原田による2004年の調査(原田, 2004)では、初産婦のおよそ2人に1人が子どもとの接触がないまま親になっていると報告されているが、現在ではさらに接触の機会は減少し、初産婦の多くは、出産後のわが子との対面が、初めて新生児とふれあう機会になると推察される。母乳育児は、新生児においては栄養学的、免疫学的特長や成長発達への影響、さらに母親役割や愛着形成など様々な観点から利点があり(AAP, 2012)、妊娠中に「母乳で育てたい」と思った母親の割合は9割を超えている。しかし、授乳について、「母乳が足りているかどうかわからない」40.7%、「母乳が不足気味」20.4%、「授乳が負担・大変」20.0%など、何らか困ったことがある割合

は、88.2%と高い（平成27年度 乳幼児栄養調査 厚生労働省，2015）と報告されており、授乳が育児技術習得の中で難しい内容であることがわかる。

このように、初産婦は子どもとの接触の機会に乏しく、育児経験もないことから、新生児の特徴を理解し育児技術を習得するには努力を要する。経産婦で出産や育児経験を有していても、過去の新生児の育児技術に関して自信が持てず、不安を抱えている場合や不慣れな場合もある。授乳が上手くいくかどうかは、母親の授乳に必要な新生児の抱き方などの技術と知識の習得が大きな課題となる。また、授乳が上手くいかないことで、「母乳で育てたい」という希望が叶えられなかった母親は、精神的喪失感が大きい（本郷，2015）。新生児にとっても、母乳の利点が得られないことに繋がる。以上のことから、授乳が上手くいくことを目指して、授乳に関する知識や技術を習得できるように支援することは、褥婦に看護を提供する者の重要な役割であると考えられる。

本論文では、4年制大学に在籍する看護学生が、褥婦に対する授乳指導を実践できるように、母性看護学演習において基礎的知識と技術を習得するために、学習指導案の作成の仕方を説明し、その有用性を指摘する。

1) 母性看護学の位置づけ

母性看護学は、看護学の中のひとつの学問分野である。4年生大学での看護師養成課程において、母性看護学は専門分野に該当し、教育4単位、臨地実習（母性看護学実習）2単位の履修が必要とされる（保健師助産師看護師学校養成所指定規則，厚生労働省，最終改正2020）。母性看護学は、履修要項に準拠し、母性看護学概論、母性看護援助論Ⅰ、母性看護援助論Ⅱ、母性看護学実習とで構成される。母性看護学概論は、母性看護学の全体構造のなかで総論という位置づけをもつ科目であり、女性のライフサイクル各期の特徴を把握し、母性の概念やリプロダクティブ・ヘルス/ライツについて学習する。母性看護援助論Ⅰ・Ⅱは、母性看護学概論に基づいて、妊娠・分娩・産褥期にある母性と胎児および新生児、その家族への援助を中心に学習する。母性看護学概論と母性看護援助論Ⅰ・Ⅱの実学的な位置づけとして母性看護学実習がある。

「母性看護学演習」は、母性看護援助論Ⅰ・Ⅱの科目の中において、技術習得を目的とした学内演習を指す。学内演習は、認知領域（知識）と精神運動領域（技術）の統合を図る教育方法として重要視され、講義と臨地実習の橋渡しとなる（松本，宮地，2021）。このことから、実際に褥婦に授乳指導を行うことが想定される母性看護学実習前に、母性看護学演習において授乳に関する指導ができるための看護技術を習得することが重要である。

また、「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン（医政発0331第21号）」（厚生労働省，2018）に、教育の留意点として「講義、演習及び実習を効果的に組み合わせ、看護実践能力の向上を図る内容とする」、臨地実習の留意点として「知識・技術を看護実践の場面に適用し、看護の理論と実践を結びつけて理解できる能力を養う実習とする。

対象者及び家族の意思決定を支援することの重要性を学ぶ実習とする」と示されている。

母性看護学演習の授業においては、「授業方法は、学生が主体的に学ぶことができるよう、積極的に工夫を講じること」、教室や備品などに関しては、「同時に授業を行う学生の数は原則として40人以下とすること」、「看護師養成所における沐浴人形（新生児人形模型）は学生4人に1つ」を割り当てる（厚生労働省、2018）ように示されている。このように、母性看護学の学習において、学生数に対して必要な物品数や設備が取り決められている。

2) 母性看護学における母性看護学演習の特徴と意義

母性看護学の特徴は、「性と生殖」をキーワードとする学問分野であり、疾患や疾病を抱える患者、家族を主眼に置いた看護ではなく、対象である女性やその家族が、もともと健康な状態にあるという点に特徴がある。健康で正常な経過であっても、よりよい健康レベルに向けて、現状を維持・増進していくように援助することや、正常から逸脱した場合には、その状態を脱するための援助を行うことも重要な役割である。対象の健康状態をアセスメントし、さらにウェルネスを指向することを支援するための看護や教育を行うことが大きな意義でもある。そのため、今回の母性看護学演習においても、正常な経過から逸脱していない健康な褥婦を想定して行う。

母性看護学演習の意義については、臨地実習（母性看護学実習）における妊産褥婦や新生児とのかかわり方を事前に模擬的に体験しておくことにある。前述の通り、親となる前に子どもや新生児にふれあう機会が乏しい現状において、母性看護学実習前に看護学生個人が、新生児の特徴を理解し、抱っこなどの育児技術や授乳姿勢を理解し褥婦に指導するのは困難である。そのため、母性看護学演習において、新生児人形モデルを用いて、知識に加え、重さや大きさ、扱い方を体感するなどの実体験をとおして、実際に褥婦に授乳指導ができるようにイメージ化することが大切である。

3) 母性看護技術習得のために必要なこと

技術の習得は、知識に基づいて自らの五感をとおした体験により習得できるものである。そのため、母性看護に関わる技術を習得する場合、母性看護学概論および母性看護援助論の演習項目に関する内容が既習であることに加え、教員による説明やデモンストレーションの後に、学生に体験学習を行わせる。技術習得指導では、当該技術の手技の習得だけではなく「なぜ、そうするのか」などを根拠に基づいた理論と結び付けた技術指導や、健康な褥婦を対象とすることを考慮しコミュニケーション技術を習得させることに重点を置く。デモンストレーションの際は、具体的な事例を提示するなどして、対象に必要な援助について考え、話し合う機会や発問のタイミングを設けることによって理解が深まる。このように、母性看護学演習により、母性看護学実習における対象の把握や理解がスムーズに行

えるように、具体的なイメージ化を可能にするための効果的な演習の展開が求められる。

2. 学習指導案の構成

1) 母性看護学における学習指導案の役割

周知のように、学習指導案は、幼稚園から高等学校までの教員養成科目の中の教育方法で取り扱われている。一方、看護学の授業では、学習指導案の役割が重視されてこなかった。看護教育学を専門領域とする大学院はまだ少数ではあるが、模擬授業に際して学習指導案が注目され、授業を設計するときに作成することが有益であると認識されている。

母性看護学の担当教員の間では、看護技術の詳細については研究しているが、学習指導案の作成の仕方や改善の方法を検討し共有しているとは言えない。力点は看護技術の習得に置かれており、指導方法の適切性にはあまり注意が払われてこなかった感がある。

妊産褥婦や母親に授乳指導を行う場合、授乳の意義を理解したり、授乳の仕方をわかりやすく説明したりすることが大切である。学生が適切な看護技術を習得するためには計画的で意図的な授業設計が必要になる。さらに、学習者の能動的な授業参加を求める「主体的・対話的で深い学び」(小・中・高校学習指導要領 第1章総則)が主張されており、授業を改善することや学習指導案をしっかりと作成し改善することが求められるようになってきている。

2) 学習指導案作成の学習課題設定

授乳に関する指導ができるようになるための看護技術といっても、母親の乳房や乳頭の形や大きさ(形態)、乳房や乳頭の状態、母親の授乳姿勢、新生児の覚醒度や姿勢、授乳がうまくできているかを評価する視点など多岐にわたる。母乳の過不足の判断に関しては知識として教育可能であるため、授乳に関する姿勢の技術習得に着目して学習指導案の4つの課題を設定した。学習項目は、学習課題に対応すると考えられる内容を「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」(厚生労働省, 2018)を参考にして、次のように設定した。

学習課題1:「新生児の特徴と授乳姿勢の基本, 種類, ポイントを理解する」

学習内容①ベッドからの新生児の抱き方, 寝かせ方, ②抱っこの仕方, 排気の仕方,
③直接授乳観察用紙の使用法

学習課題2:「4つのポイントをふまえた授乳姿勢ができる」

学習内容①4種類の授乳姿勢, ②直接授乳観察用紙の記入

学習課題3:「困難がありそうなサインのある母親に対して具体的支援ができる」

学習内容①授乳姿勢の種類と注意点, ②事例写真をみた評価, ③母親への声掛け
(授乳姿勢の4つのポイントに着目して)

学習課題 4：「状況に応じて考えた授乳姿勢ができる」

学習内容①模擬患者の例題による授乳姿勢の実践

3) 母性看護学演習の準備

(1) 看護学生の概要や学習内容を把握する

この学習指導案を用いた授業で対象とする学生は、看護学科に在籍する大学生である。母性看護学演習の時期は、母性看護学実習前の3年次前期である。受講する学生数に対し教員が指導可能であることと、演習室の広さや必要物品の数を考慮する必要がある。

母性看護学概論や母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱにおいて、既習の内容について確認する。

(2) 母性看護学演習室を確保する

学習指導案に基づき母性看護学演習室を準備した。厚生労働省(2018)は「同時に授業を行う学生数は原則として40人以下とすること」としているが、今回は1回の母性看護学演習で同時に学習する学生数を15~20人ずつの4グループに分けた。

(3) 母性看護学演習の前に必要物品を確認し準備する

母性看護学実習で体験する実際の授乳場面を想定し必要物品を準備する。授乳指導に必要な模擬患者(新生児人形モデル)、コット(新生児用ベッド)、タオル(リネン)、肌着、おむつ、椅子、机、資料、手指用アルコール消毒薬が使用可能な状態か確認し準備する。看護学生に割り当てられる在庫数を確認する。

(4) 演習内容で使用する必要物品を準備し配置する

必要物品を図1のように配置する。看護学生2人を1組にして、椅子の位置に学生が1

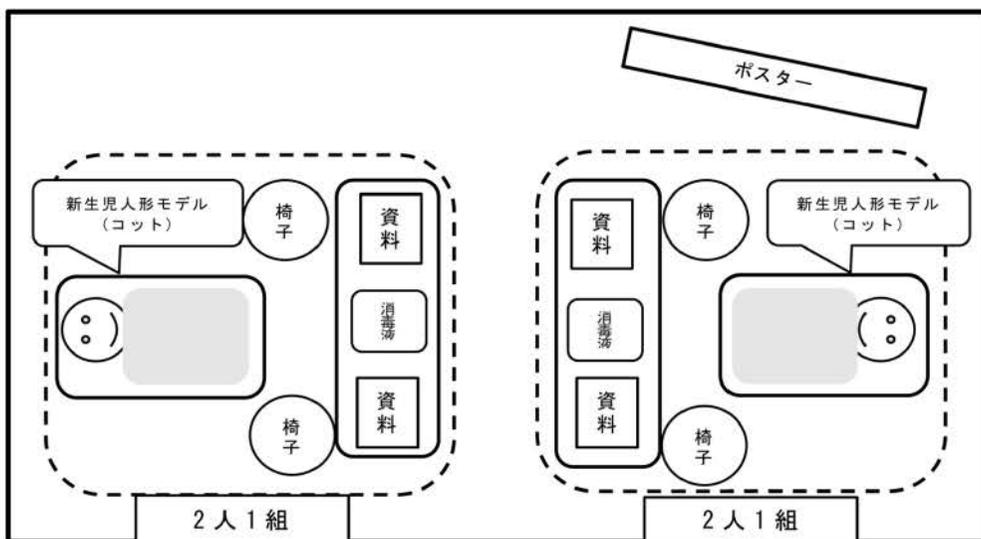


図1.母性看護学演習室内の配置(一部)

人ずつ座る。母性看護学演習室内で、教員が学生間を巡回しやすく、かつ学生同士が密にならないように間隔をあけて椅子や物品を配置する。学生が前を向いた際に目に入りやすいように、板書のできるパーテーションの1枚に新生児の抱き方についてのポスターを掲示する。板書ができるようにホワイトボード用のペンを準備しておく。

3. 母性看護学演習指導案の展開

母性看護学演習の学習指導案は、授業時間を90分として作成する。(表1)

表1 母性看護学演習 学習指導案

		氏名	○○	○○○	印
1	日時	令和 3 年	○ 月	○ 日	○ 曜日
					○ 時限
					○○時 ○○分～ ○○時○○分
2	学年組	健康科学部看護学科3年			
		各回 15～20 名ずつ 4 グループに分けて実施			
3	単元名	授乳指導のための看護技術			
4	資料名・教科書	自作プリント3枚			
5	単元設定の理由	指導観			
		学生は母親役と看護師役の両方を演じ、新生児人形モデルを使用して授乳姿勢を学習する。直接授乳観察用紙の「赤ちゃんの体勢」の4つのポイントを理解する。学生がひとりひとり授乳姿勢を実演するとともに、ペアワークやグループワークを通して、授業を進める。			
		教材観			
		授乳指導については、「赤ちゃんの体勢」が示されているので、学生は授乳の仕方を理解しやすいであろう。新生児人形モデルを使用しながら、授乳姿勢の望ましい在り方を自ら実践したり、他の学生の授乳姿勢を観察したりする。			
		学生観			
		学生は、日常生活の中において母親が授乳をしている場面を観察する経験をほとんど持っていない。しかし、母親特に初産の母親については、授乳の指導をすることは、母乳育児を続けるためにも必要なことである。母乳育児は、人工栄養と比較して、母親から免疫力を受け継ぐという点で優れており、推奨すべきものである。学生にも、母乳育児の大切さを認識してほしい。			
6	単元の目標	(1) 新生児の特徴と授乳姿勢の基本、種類、ポイントを理解する。			
		学習内容①ベッドからの新生児の抱き方、寝かせ方、②抱っこの仕方、排気の仕方、③直接授乳観察用紙の使用法			
		(2) 4つのポイントをふまえた授乳姿勢ができる。			
		学習内容①4種類の授乳姿勢、②直接授乳観察用紙の記入			
		(3) 困難がありそうなサインのある母親に対して具体的支援ができる。			
		学習内容①授乳姿勢の種類と注意点、②事例写真をみた評価、③母親への声掛け(授乳姿勢の4つのポイントに着目して)			
		(4) 状況に応じて考えた授乳姿勢ができる。			
		学習内容①模擬患者の例題による授乳姿勢の実践			
7	単元の指導計画	授乳指導のための看護技術 2時間(本時)			

8 指導課程

時間	学習活動	指導上の工夫・留意点	準備するもの
導入 10分	<p>①本日の学習内容を説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習の概要を説明する ・学習課題，学習内容の提示，確認 <p>②雰囲気づくりを行う</p> <p>③注意事項を説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策 <p>④資料を配布し説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の復習… (1) ・授乳姿勢について… (2) ・直接授乳観察用紙について… (3) 	<p>②興味や関心を持って学習できるよう臨床経験，実際に遭遇した事例などを話し，雰囲気作りを行う</p>	<p>(1) 配布資料「1枚目」</p> <p>(2) 配布資料「2枚目」</p> <p>(3) 配布資料「3枚目」</p>
展開 75分	<p>母乳育児に必要な技術を習得させるための援助方法</p> <p>①授乳姿勢を説明し実演する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4種類の授乳姿勢と特徴を説明する ・「赤ちゃんの体勢」の4つのポイントを説明する <p>②学生に授乳姿勢を実演してもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人が母親役，もう1人または2人は看護師役になるように説明する ・母親役の学生に指示した授乳姿勢を実演するように説明する ・母親役の学生に排気の姿勢を実演するように説明する ・次に，母親役と看護師役を交代して実演してもらう <p>③看護師役が「直接授乳観察用紙」を記入し，良い点や改善点をアドバイスしてもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親役が4種類目の授乳姿勢をする際に，直接授乳観察用紙を用いて「赤ちゃんの体勢」の4つのポイント 	<p>①新生児人形モデルで実演する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生全員に実演が見えるよう中央に位置し，見える位置に移動するように促す ・実演しながら，母親にどのように声掛けをするのか説明する <p>②新生児人形モデルで実演する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指示の際には，4種類の授乳姿勢を順不同に指示する ・巡回しながら学生の良い点を見つけ，褒める <p>③実際は，目の前で母親の授乳を評価するために記入するのではなく，支援者が確認するために記入するように説明する</p>	<p>①新生児人形モデル，椅子，バスタオル（新生児人形モデルの高さを調整するため）</p> <p>②配布資料「2枚目」，新生児人形モデル，椅子，バスタオル</p> <p>③配布資料「3枚目」，新生児人形モデル，椅子，バスタオル</p>

	<p>トをチェックするように説明する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「赤ちゃんの体勢」4つのポイントに着目し、良い点は褒め、改善点は具体的な方法を助言するように促す <p>④状況設定した褥婦に対する適切な授乳姿勢を実演してもらう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親役と看護師役の学生双方が考え、その状況の褥婦に適していると考えられる授乳姿勢をとってみるよう促す 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が思い通りの支援ができるように巡回する <p>④ どうしてそのような姿勢を選択、または提案したかを考えるように促しながら巡回し、学生の良い所を褒めて伝える</p>	<p>④配布資料「2枚目」「3枚目」、新生児人形モデル、椅子、バスタオル</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>演習内容をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「赤ちゃんの体勢」の4つの授乳姿勢のポイントが理解できたことを確認する 	<p>配布資料3枚目の「赤ちゃんの体勢」の4つのポイントについて、空欄部分書き取れているか確認する</p>	

1) 導入

導入は、まず、演習の概要や学習課題、学習内容を説明し、どのようなねらいで、どのようなことを行うかを説明する。学生が、母性看護学演習の内容を理解して臨むことで、準備状況が整い理解しやすくなる。

2番目に、看護学生が興味や関心を持ち、緊張せずに学習できるようにするために、教員の自己紹介や臨床経験、実際に遭遇した症例などを話し、雰囲気作りを行う。

3番目に、演習を行ううえでの注意事項を説明する。本年(2021年)は新型コロナウイルス感染症の流行のさなかであるため、感染予防のためにマスクを装着し、密にならずに間隔をとること、実際の授乳場面の支援を想定し机の上に配置した手指用アルコール消毒薬を適宜使用することを説明する。

4番目に、配布資料について確認し、説明する。1枚目の配布資料は、既習の内容で復習に当たる。授乳指導の際に観察する項目である乳頭の形態の分類や乳房のタイプについて掲載したものを準備した。2枚目の配布資料は、代表的な4つの授乳姿勢(横抱き、交差横抱き、縦抱き、脇抱き)について、画像や解説、注意点が記載されたものを準備した。3枚目の配布資料は、「直接授乳観察用紙」である。これは、UNICEF/WHOが作成した直接授乳がうまくできているかをアセスメントしていくツール(UNICEF/WHO, 2009)である。授乳が上手くできているサイン、困難がありそうなサインを観察項目ごとにチェックしていくものを準備した。臨床の指導場面では困難がありそうなサインに褥婦自身がチェックし、看護者は示された観察項目を支援するが、問題点にのみ着目し批判的に捉えるのではなく、まずは授乳が上手くできているサインなど、よいところを見つけて褒める、その次に助言をするなど支援を行うというように活用する資料である。本時の演習では、この

表2 直接授乳観察用紙の「赤ちゃんの体勢」

授乳が上手くいっているサイン		困難がある可能性があるサイン	
赤ちゃんの体勢（*）			
<input type="checkbox"/>	赤ちゃんの頭と体は一直線になっている	<input type="checkbox"/>	授乳をするときに赤ちゃんの首や頭がねじれている
<input type="checkbox"/>	赤ちゃんはお母さんの体に密着して抱かれている	<input type="checkbox"/>	赤ちゃんが密着して抱っこされていない
<input type="checkbox"/>	赤ちゃんは全身が支えられている	<input type="checkbox"/>	赤ちゃんが頭や首だけで支えられている
<input type="checkbox"/>	赤ちゃんは乳房に接近していて鼻が乳頭の真逆を向いた状態である	<input type="checkbox"/>	赤ちゃんの下唇が乳首に触れるように吸着している

引用文献 12) より一部抜粋・修正 （*）引用文献では「赤ちゃんのポジショニング」

「直接授乳観察用紙」項目の一部である「赤ちゃんの体勢」を4つのポイントとし、強調して説明する。この導入部分に10分を充てる。

2) 展開

展開は、演習において主要な部分となる。導入後、1番目に教員が新生児人形モデルを用いて4種類の授乳姿勢を実演する。学生全員が見えるよう中央に位置し、見える位置に移動するように促す。その際に、「赤ちゃんの体勢」の4つのポイントが、実演しているなかで何を指しているのか、人形を用いて実演しながら説明する。そして、実演しながら、どのような声掛けをするのか具体的に説明する。

2番目に、学生は1人が母親役、もう1人または2人は看護師役になるように説明する。順に役割を交代するため、全員が母親役と看護師役を経験することを説明する。

3番目に、母親役の学生に指示した授乳姿勢をとってみるように説明する。指示の際には、授乳姿勢の4種類を順不同に指示する。教員は巡回しながら学生の良い点を見つけ、褒める。看護師役の学生も、4つのポイントに着目し、できていると思うポイントを見つけ、母親役の学生に「頭と体がまっすぐになっていて、安定感がありますね」、「しっかり体が密着していて、上手な姿勢ですね」など母親を褒めるような声掛けをするように伝える。

4番目に、母親役の学生が4種類目の授乳姿勢をする際に、直接授乳観察用紙を用いて「赤ちゃんの体勢」の4つのポイントをチェックするように説明する。実際には、目の前で母親を評価するように記入するのではなく、4つのポイントを確認するために記入するように説明する。

5番目に、「赤ちゃんの体勢」の4つのポイントで困難がありそうなサインにチェックがあった場合、「タオルを使って赤ちゃんを支える高さを調整してみると、もっと体が密着して安定するかもしれませんね」など具体的な助言で支援をするように促す。具体例を

説明しながら、学生が思い通りの支援ができるように巡回指導する。

6番目に、状況設定した患者を伝え、母親役の学生と看護師役の学生双方が考え、その状況の母親に適していると考えられる授乳姿勢をとってみるように促す。どうしてそのような姿勢を母親役の学生は選択したのか、または看護師役の学生が提案したかを考えるように促しながら巡回し、学生の良い所を褒めて伝える。

展開は時間の8~9割の時間をあてる(伊藤, 石村, 2015)ことから、上記の展開部分を演習時間90分のうち、75分を充てる。

3) まとめ

まとめは、演習の内容をまとめ、理解を確認する。配布資料で説明した内容、実践した4種類の授乳姿勢や、「赤ちゃんの体勢」の4つのポイントについて、要点を復唱し確認する。質問ができる時間を設け、質問があった場合に対応する。まとめの時間に、5分を充てる。

4. 考察

今回、母性看護学演習の授乳指導について作成した学習指導案を用いて授業を行い、有用性について検証を行った。

母性看護学演習において、学習指導案を作成する有用性として、3点挙げられる。

第1に、学習指導案を作成することによって、授業内容の見直しが可能となり、効果的な母性看護学演習を行うことができる。限られた時間のなかで、学習指導案にそって、予め物品の準備や配置、配布資料を作成しておくことで、演習に時間的ゆとりが生じ、充実した展開が可能となる。当初、学生を3人組にして、1人を母親役、もう1人を看護師役、もう1人をアドバイザー役として客観的に評価をする役割を想定して、学習指導案の作成を考えていた。しかし、学習指導案を作成および見直すなかで、実際の場面を想定しながら学生が自ら体験することで、よりイメージ化に繋がり、援助に対する自主性を引き出せると考えた。このことから、母親と支援者(看護師)の実際の状況により近い授乳場面を想定し、2人組を演習の基本とした。このように、学習指導案を作成することによって授業の内容や構成を吟味し、修正することで円滑な演習が可能となる。

なお、互いの身体に触れる可能性のある演習であることから、ペアの組み合わせは学生の自主性に任せた。コミュニケーションの取れている関係性の良好なもの同士を組み合わせることで、自由に発言ができ、能動的、協働的な学習になることを期待した。

第2に、学習指導案に基づく演習の目的や要点を学生に提示することで、学生自身も学習課題・学習内容を把握して授業に臨むことが可能となる。教員は演習の目的や構成を把握していることで、学生からの質問等に対しても本時の学習課題に沿って適切に助言を

与えることができ、重要なポイントを落とすことなく教授することができる。

第3に、母性看護学演習の評価のためである。前述のとおり、母性看護学実習の前段階として、母性看護技術の習得を目的に演習を行っている。母性看護学実習で実際に学生が活用することができなければ、演習の構成や内容の再考が必要となる。また、学生の学習や技術習得を向上させるために、演習の構成や内容を考え、よりよい指導を目指すことは教員としての責務であると考えられる。

以上のことから、母性看護学演習において学習指導案を作成することは意義があり、有用である。

5. 研究の限界と今後の課題

本論文では、母性看護学演習での学習指導案の作成について教員側からの有用性を確認した。さらに学生側からみた学習目標達成のための有用性を評価する必要がある。また、本論文で作成した学習指導案は4年制大学の看護学生を対象としており、看護師養成所(3年制)などの学生に対しても適用できるかなどは対象者数やカリキュラム内容に合致しているか吟味する必要がある限界がある。

今後は、本論文で作成した学習指導案で、学生が実際に学習効果を得られるかを確かめる必要がある。そのためには、臨地実習(母性看護学実習)で学生が実際に活用できる知識・技術になっているかを評価する必要がある。今後、学生による授業評価、臨地実習(母性看護学実習)中の授乳指導場面の観察結果を用いて、学習指導案の再検討を予定している。

6. 結語

本研究により、以下の3点の示唆を得た。

1. 学習指導案を作成することによって学習指導案の内容や構成を吟味し、修正することで円滑な演習が可能となる。
2. 学習指導案を作成することによって、演習での学習課題や学習内容が明確となり、一貫性を持たせることができる。
3. 学習指導案を作成することによって、母性看護学演習の内容や構成の評価基準の明確化が可能となる。

引用文献

- (1) 原田正文：いま、ほんとに必要な育児支援とは何か？「大阪レポート」から23年目に調査が描くもの、保健師ジャーナル60(2)：178-181, 2004.
- (2) 米国小児科学会（American Academy of Pediatrics：AAP）NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会（訳）：「母乳と母乳育児に関する方針宣言（2012年改訂版）」
<http://www2.aap.org/breastfeeding/files/pdf/Breastfeeding2012ExecSum.pdf>
<https://jalc-net.jp/dl/AAP2012-1.pdf>（2021年11月17日閲覧）
- (3) 厚生労働省：「平成27年度乳幼児栄養調査」, 厚生労働省, 2015.
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html>（2021年11月17日閲覧）
- (4) 本郷實子：母乳だけで育てられなかった女性への支援, 母乳育児支援スタンダード, 369, 医学書院, 2015.
- (5) 厚生労働省：保健師助産師看護師学校養成所指定規則, 最終改正2020.
- (6) 松本光子監, 宮地緑編：看護学臨地実習ハンドブック 基本的考え方と進め方 第6版.145 - 146, 金芳堂, 2021.
- (7) 文部科学省：小学校学習指導要領（平成29年告示）第1章総則 第1 小学校教育の基本と教育課程の役割 2
https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf
- (8) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成29年告示）第1章総則 第1 中学校教育の基本と教育課程の役割 2
https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf
- (9) 文部科学省, 高等学校学習指導要領（平成30年告示）第1章総則 第1款 高等学校教育の基本と教育課程の役割 2
https://www.mext.go.jp/content/1384661_6_1_3.pdf（2021年11月17日閲覧）
- (10) 厚生労働省：看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン（医政発0331第21号）, 2018.
- (11) 厚生労働省：「厚生労働省 - 第8回看護基礎教育検討会について」2019.
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-isei_544319.html（2021年11月17日閲覧）
- (12) UNICEF/WHO（著）.BFHI2009 翻訳委員会（訳）：UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイドーベーシック・コース「母乳育児成功のための10カ条」の実践, 166, 医学書院, 2009.
- (13) 伊藤利明, 石村由利子：学校外教育における学習指導案の意義—母親学級を中心にして—, 教育保育研究紀要, 1(1)：1-8, 名古屋経済大学・名古屋経済大学短期大学部教育保育研究会, 2015.

参考文献

- ・池西静江, 石東佳子, 藤江康彦：学習指導案ガイダンス, 8-16, 医学書院, 2019.
- ・三浦真琴：クループワークその達人への道, 1-23, 医学書院, 2018.

(伊藤 利明：名古屋経済大学名誉教授・教育学)

(加仲真理子：名古屋女子大学助教・母性看護学)

(石村由利子：名古屋女子大学教授・母性看護学)